

# 草原の椅子 登場人物紹介

とおま けんたろう  
**遠間 憲太郎 (50)**

カメラ機器メーカーの営業部で局次長として働いている。妻とは離婚し、現在は娘の弥生と2人暮らし。取引先の社長である富樫と意気投合し、親友の契りを交わす仲になる。陶磁器店<しのはら>の店主 篠原貴志子に密かに想いを寄せている。以前一人旅で訪れたパキスタン・フンザで出逢った老人から言われた言葉を常に頭に思い浮かべながら、自らの進む道を模索する。ある出来事をきっかけに自宅で預かることになった圭輔に次第に愛情を抱く。

とがし じゅうぞう  
**富樫 重蔵 (50)**

生まれは岡山県K市。中学しか出ていないが、カメラ店での勤務を経て、30歳でカメラ機材の量販店を興し、関西でも有数の会社「カメラのトガシ」の社長となった。身長は約160cmとやや小柄だが、その容姿とは逆に、大きな腹芸と、きめこまやかな心遣いがあり、いつも汪洋としている。愛人に灯油をかけられる事件をきっかけに、憲太郎と親友になる。岡山県に住む実家の父は、足や腰が悪い人のための椅子を作っている。

きたがわ けいすけ  
**喜多川 圭輔 (5)**

弥生がアルバイトとして働いていたデパートの主任 喜多川秋春の義理の息子。実の母親から虐待を受けて育ったため、心身の発育に問題を抱えている。母親の家出後、秋春が面倒を見ていたが、秋春の出張をきっかけに遠間家に預けられることになる。

しのはら きしこ  
**篠原 貴志子 (39)**

憲太郎が富樫に紹介した弁護士の事務所の階下にある陶磁器店<しのはら>を営んでいる。結婚して3年ほどで離婚し、現在は独身。中学2年生の娘がいる。憲太郎に誘われ、富樫、圭輔と4人でタクラマカン砂漠・パキスタン・フンザへの旅に出る。

とおま やよい  
**遠間 弥生 (22)**

憲太郎の娘。大学4年生で、富樫の紹介で就職が内定している。遠間家の家事を切り盛りするしっかり者。今まで秋春以外の誰にも心を開かなかった圭輔に初対面から懐かれ、長期的に圭輔を預かることになる。憲太郎の会社が主催するフォトコンテストで以前奨励賞をとった青年 鍵山と交際を始める。

かぎやま せいじ  
**鍵山 誠児 (26)**

過去に憲太郎の会社主催で行われたフォトコンテストで奨励賞をとった青年。コンテストの際に自分の作品を推してくれた憲太郎に逢いに家へ訪ねてくる。「楽しいもの。幸福を感じるもの。美しいもの。荘厳なもの。笑いがあるもの。気持ちのいいもの。それらを中心として、人間の心について考えてしまうもの」をテーマにした写真集「翼」を自費出版した。

きたがわ おきはる  
**喜多川 秋春 (41)**

圭輔の義理の父。圭輔の実の母親 祐未の再婚相手。祐未が圭輔を置いて家を出て行ったため、圭輔と2人で西宮のマンションで暮らしていたが、出張で数日間家を空けることになり、圭輔を弥生に預けることに決める。日が経つにつれ、自分よりも憲太郎や弥生に懐く圭輔を見て、嫉妬心を抱くようになる。